

令和4年 12月 2日(土)

あさひの日だまり

NO.29

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～「わくわくおはなしかい」～

読書ボランティアの皆様ありがとうございました

11月の29日・30日・12月1日の3日間に分けて、全校の児童が「わくわくおはなしかい」で読み聞かせの時間を楽しみました。「わくわくおはなしかい」はボランティアの皆さんをお招きしての企画です。ボランティアの皆さんには1日に2時間ずつ2つの学年の児童にお話をしていただきました。子どもたちがひきつけられそうな本を選んでいただいたり、読み聞かせの途中には指あそびを入れていただいたり、子どもたちが1時間楽しめるようにいろいろ工夫をしてくださいました。会場をのぞかせてもらくと、不思議なお話の場面では、「えー、どうして?」とザワザワしたり、話の核心の場面では身を乗り出して絵本のページに目をやったりと、子どもたちが心を動かして、一人ひとりその子なりに思いを巡らすことができる貴重な体験をしている様子が見て取れました。そういう姿を目にすると、本当にうれしい気持ちになるのと同時に、ボランティアの皆さんには心から感謝

思わず引き込まれる上手な話し手さんです



の気持ちを送りたいと思いました。

3年生のおはなしの時間に写真を撮らせてもらおうとお邪魔したら、私も思わずお話の中に引き込まれ、少し長い絵本でしたが、子どもたちと最後まで思わず目をそらせない時間を過ごさせてもらいました。

話は変わりますが、読書っていいな~と思うときがあります。読書は、時間と場所と身の周りの環境という実際の生活の場面から、本の中へ歩みを進めると、私たちをあっという間に別の世界へ連れ去ってくれるのです。私ごとの話で大変申し訳ありません。わが家は専業農家で、中高の頃は、なんとなく農業の後継者を考えていました。ある日、畑でいっしょに仕事

をしていた父が「これからは専業農家は難しい、何か違う仕事を考えた方がいい」と話し始めました。そんな私に影響を与えた3冊の本があります。それは、夏目漱石の「坊ちゃん」。灰谷健次郎の「兎の眼」。山口瞳の「けっばり先生」という3冊の本です。私はこの本を開くたびに、その学校の職員室のはじに身を置いて、登場する先生たちの姿を目で追っているような気持ちになりました。

この本に接して「先生って素敵な仕事なんだな」と感じたのを今でも鮮明に覚えています。この本は、私には全く未知な、先生方の一人の人間としての生き方に触れる機会を与えてくれました。

子どもたちはこれからの人生の中で、きっとたくさん本と出会っていくでしょう。子どもが手に取ったその本の中に、その子にとってかけがえのない一生の宝物が隠されていることを願ってやみません。

～「男の子と女の子はちょっとちがうのかな～」

性に関わる勉強をしました

保健室をのぞいたら、養護の先生が男性と女性の描かれた大きな紙を用意しておられました。「これを使った授業をするのですか?」と尋ねたら、「4年生にこれを使って授業をしようと思っています」とお話ししてくださいました。



授業の様子をちょっと見せていただこうと思って教室を訪ねました。

授業の題名は「思春期にあらわれる変化について考えよう」というものでした。先生の「男子の体と女子の体にどんな変化があらわれますか」「体と心の両方から考えてみて下さい」という問いかけに、子どもたちは、ニコニコ笑いながら、そして、真剣に「男子は肩幅が広がる」「体毛が生えてくる」など、友だちと話しながら、答えていました。

きっと、思春期を迎える子どもたちは、他の人の成長と比べて、「自分だけ違ったらどうしよう」と不安を感じたり、異性を意識する自分の心の変化に戸惑ったりするに違いありません。授業では、「思春期の心と体の成長には個人差がある」という言葉で、そのことが説明されていました。

今回勉強したことが、やがて出会う「戸惑い」を自分なりに乗り切っていくときのちょっとした支えになってくれるはずです。「みんなの未来が幸せでありますように」と勉強している子どもたちの背中に心の中で声をかけて教室を後にしました。

～登校日、今年も残すところ15日となりました～ 懇談会よろしくお願いします。

師走を迎え、朝夕の冷え込みに、冬が本格的に來ている。と実感させられる毎日です。

年末年始休業も近づいてきましたが、その前に、3者懇談会があります。ご家庭の皆様には、お仕事等いろいろと都合をつけていただいたことと思います。本当にありがとうございます。現在、職員は、懇談会に渡せるように通知表を一生懸命に作っています。懇談会を終えて、お帰りになるときに、「懇談会に来てよかった」と感じていただけますように、職員も準備を進めてまいります。

ご足労をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。